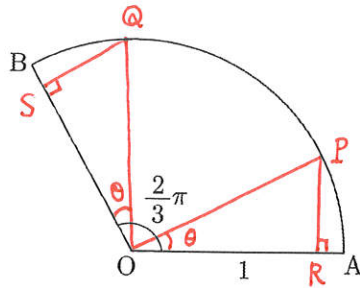


2014年理工A方式第3問

数理
石井K

3 下図のように、点Oを中心とし、半径が1で中心角が $\frac{2}{3}\pi$ の扇形OABがある。 θ を $0 < \theta < \frac{\pi}{3}$ を満たす角として、弧AB上に、 $\angle AOP = \theta$, $\angle BOQ = \theta$ を満たす点P, Qをとる。また、点Pから線分OAに垂線を下ろし、線分OAとの交点をRとする。点Qから線分OBに垂線を下ろし、線分OBとの交点をSとする。このとき、以下の間に答えよ。



- (1) 三角形OPRの面積を θ を用いて表せ。
- (2) 三角形OPQの面積を θ を用いて表せ。
- (3) θ が $0 < \theta < \frac{\pi}{3}$ の範囲を動くとき、五角形ORPQSの面積の最大値を求めよ。

(1) $P(\cos \theta, \sin \theta)$ より、 $\Delta OPR = \frac{1}{2} \sin \theta \cos \theta$ //

(2) $\Delta OPQ = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 1 \cdot \sin\left(\frac{2}{3}\pi - 2\theta\right) = \frac{1}{2} \left(\frac{\sqrt{3}}{2} \cos 2\theta + \frac{1}{2} \sin 2\theta\right)$

$\therefore \Delta OPQ = \frac{\sqrt{3}}{4} \cos 2\theta + \frac{1}{4} \sin 2\theta$ //

(3) 五角形ORPQSの面積を $S(\theta)$ とおくと(1),(2)より

$$S(\theta) = 2 \cdot \Delta OPR + \Delta OPQ$$

$$= \frac{1}{2} \sin 2\theta + \frac{\sqrt{3}}{4} \cos 2\theta + \frac{1}{4} \sin 2\theta$$

$$= \frac{3}{4} \sin 2\theta + \frac{\sqrt{3}}{4} \cos 2\theta$$

$$= \frac{\sqrt{3}}{2} \left(\sin 2\theta \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} + \cos 2\theta \cdot \frac{1}{2} \right)$$

$$= \frac{\sqrt{3}}{2} \sin\left(2\theta + \frac{\pi}{6}\right)$$

$\therefore 0 < \theta < \frac{\pi}{3}$ より $\frac{\pi}{6} < 2\theta + \frac{\pi}{6} < \frac{5}{6}\pi$ \therefore 最大値は $\frac{\sqrt{3}}{2}$ ($\theta = \frac{\pi}{6}$ のとき) //

最大とるのは、 $2\theta + \frac{\pi}{6} = \frac{\pi}{2}$

すなわち $\theta = \frac{\pi}{6}$ のとき。